

オペレッタ実践と保育実習の関わり

中 村 ウ メ

1. は じ め に

昭和56年度第26回全日本音楽研究会長野県大会に於て、『これからの大学における音楽教育のあり方』と題するシンポジウムの中で、次の2つの論を聞くことができました。

文部省初等・中等教育局主任教科書調査官の西沢昭男氏は、「これからの音楽教育に求められる資質能力について」——教員養成校の立場から——1) 多様な音楽に対する多様な対応の必要性……ピアノ練習の時間のかけ方と、演奏内容の高さから……2) 創造的な姿勢の必要性……楽典理解の応用性……3) 豊かなリーダーシップの必要性……集団と個の意見交換……4) 多面的な技能養成の必要性……広範囲の音楽能力……について語られました。また東京芸術大学講師、名古屋音楽大学教授の大畑祥子氏は、「幼児と音楽」と題して、幼児教育養成校の音楽は、音楽的に高く、実践的に必要な内容を望まれていること。幼児理解のために医学的な方面から音楽教育が研究されなければならないことなど論ぜられました。特にある医学博士が実験された音楽の胎児への影響の1研究で、お腹の中でピアノソナタ、ベートーベンの月光の曲がどのように聴こえるかその録音再生を聴くことができたことは、私にとって1つの大発見ともなりました。

本大学に於て、小集団で実践し、また多目的な音楽リズムの内容を含み、直接幼児とふれあうことのできる題材として、保育実習との関わりのあるオペレッタを実践することにしました。前回発表の音楽好きな一部の学生によるオペレッタの保育実習での取り組みの成果を、学生に提示し、学生の意欲をみて、音楽Ⅱの中にオペレッタの実践を入れ、グループによる研究交換を実践することにしました。今年度は実習指定園の約1/3の施設で、オペレッタが実践されました。オペレッタを通して、幼児との沢山のふれあいを持つことのできた学生が、ますます保育に対する勇気と意欲を燃やす姿勢を見い出したとき、私はいよいよもって、音楽教育の演習の1つとして、オペレッタ実践を位置づけることに確信することができました。

2. 学生の意識調査から

昭和56年度11月30日音楽Ⅱの履習者を対象にとったアンケートの中から、直接保育実習で、オペレッタを实践することができた学生の意識調査をまとめたところ、次のような結果になりました。

アンケート例

1. 幼稚園、保育園実習と、オペレッタ実践の関係。——アンケート解答は1つだけ○印をつけること。——（直接実践経験した82人の学生による解答）

- | | | | |
|-----------------------|-----|------|-------------|
| イ オペレッタは絶対やったほうがよい。 | 37人 | 45% | |
| ロ 人数・グループの良いときにやるべきだ。 | 43人 | 52% | |
| ハ 園の要求があつて仕方なく演じた。 | 1人 | } 3% | (小数点以下切りすて) |
| ニ 苦勞して実践する必要はなかったと思う。 | 1人 | | |

2. オペレッタ「うさぎのみみこ」を实践できた学生は次のことに答えなさい。——アンケート解答は1つだけ○印をつけること——（解答者71人）

- | | | |
|-------------------------|-----|-------|
| イ 子どもたちは興味をもってみてくれたと思う。 | 62人 | 87.3% |
| ロ 子どもたちは仕方なくみてくれたと思う。 | 2人 | 2.8% |
| ハ どっちとも思えない、その他。 | 7人 | 9.8% |

保育実習でのオペレッタ実践者は音楽Ⅱ履修者171人中82人とする、47.95%と半数弱にしか及ばない。しかし学生意欲と園側の協力などを考えると、前回の21人の経験者数に比べて、その延び率も良く、オペレッタに対して関心を高めたことになりましょう。

学生が、オペレッタはグループの良いときにやるべきだと52%も解答したことは、音楽Ⅱの校内実践と保育実習のグループが異なり、お互いの人間性を良く知ることなく納得のゆく実践とならなかった正直な学生の気持ちのあらわれでしょう。またオペレッタ「うさぎのみみこ」の経験者71人による、子どもたちが興味をもってみてくれたと思うと87.3%が解答したことは、演技の上手・下手にかかわらず、学生保母の応援をした子どもたちのようすを知ることができます。

3. 学生のオペレッタ「うさぎのみみこ」の取り組み

幼児むけのオペレッタ音楽は、覚え易い旋律の流れと、リズムの変化が必要となりまし

よう。今回は実習人数の内容から、最低3人でできるオペレッタ「うさぎのみみこ」（資料1）を創作してみました。音楽の内容は、ソナチネに入りにかけた学生が演奏できるように、また、覚え易くて、歌い易い旋律を考慮しています。学生の中で、また幼児にすぐ口づさまれた旋律は、みみこの「どうしましょ、どうしましょ。」の部分であり、キッネとカラスの「みーみこちゃん、みーみこちゃん、……ガアガアガア、ガア、ガア。」でした。

大道具・小道具は持ち運びが便利で、より立体感のでるセットを考え、実質感を味わえる布製の小道具を工夫することにして、A組の1グループ（組割は当番制にしている）が製作しました。以下その取り組んだ内容を示します。

オペレッタ「うさぎのみみこ」の取り組み。

1) 4月楽譜提示。

他の講義内容と合わせて、1度だけ目を通す。

5月、幼稚園実習に実践したグループは、2グループのみ。

2) 7月第1週、所要時間2時間

リトミック身体表現の遊びで、つくられる、即席の3人グループで、オペレッタの演出を工夫。

よい動きや、歌唱内容と表情のより良いグループを選び出し、参考例としてステージで、演出の吟味をする。

ピアノ指導方法でとっている、グレード別によるグループ（8～14人）による、オペレッタ実践を次週までの課題とする。

3) 7月第2週、所要時間3時間。

グループによる発表。

大道具のセットの仕方は、自由。衣装は各グループでのとらえ方によって一任。

7月第1週の3人グループによる演出実践は、保育実習で取り組み易いように展開しました。第2週のピアノ指導方法のグレード内容によるグループ発表は、学生の音楽能力、あるいは、チームワークがオペレッタ実践にどの程度影響し、どんな作品ができるかを調べることにありました。すでに打楽器中心のアンサンブル発表は、音楽能力によるはっきりとした差が出て、より優れたグループによるより良い演奏内容を全員で賞め讃えてもいます。ところが、オペレッタ実践の場合は、音楽内容を高度にしなかったため、その全体的表現が高く評価されたグループは、チームワークの良さが優先しました。このことは学生にとって、オペレッタに対するある勇気と反省を与えたことになりました。写真1はそ

の演出の良い例です。写真では見られませんが、脚の動きをよく考え表現したM子のうさぎのみみこ、歌がうまくて、表情豊かなA子のキツネとH子のクマ、動きが繊細で上品なY子のお母さん、勇気の入る動きを考えたS子のカラスは都合で写真にのせられませんでした。写真撮影は校内による合唱祭7月4日に発表された内容です。

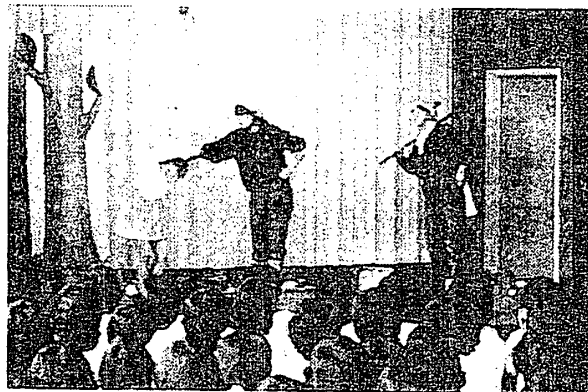


写真1のa

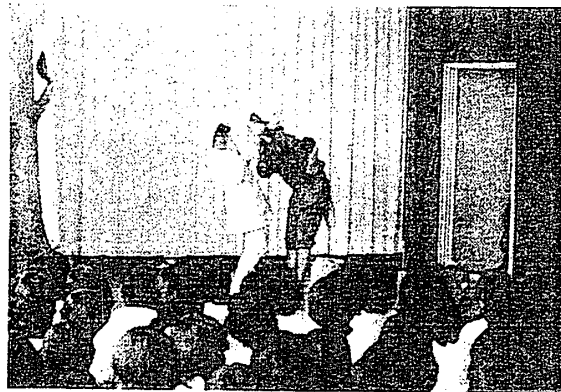


写真1のb

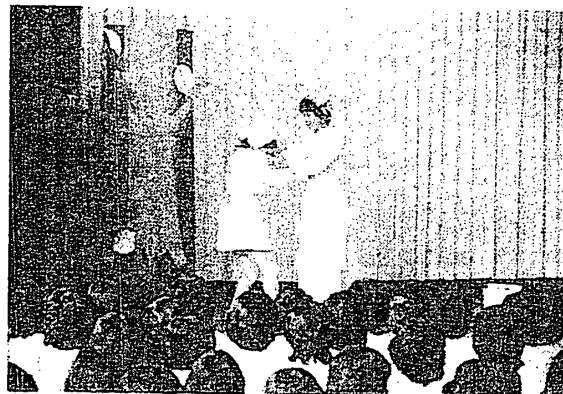


写真1のc

4. 保育実習先で観たオペレッタ

本学における保育実習は幼稚園実習・保育園実習ともに実質10日間づつ、前期と後期の2期を合わせて20日間になっています。

今年度実習先で実践されたオペレッタの回数は、幼稚園12カ所、保育園16カ所、実習2期とも発表された園は、幼稚園1カ所、保育園3カ所になりました。実習順をおってその内容を示したいと思います。

1) 5月幼稚園実習先の例

提示されたオペレッタの台本を、直接演じた勇気のある学生でした。演技に夢中になりすぎて、幼児にとって、ことばが不明確で理解しにくいオペレッタの実践だったといえましょう。それでもオペレッタの導入成功から実践を終えて幼児の前に立った学生保母に、「ぼく、デパートでお母さんこまらせないよ。」と約束した4歳の男の子をはじめ、2, 3の幼児の反応を見ることができた、聖心幼稚園での実践は、オペレッタ本筋の成功といえましょう。

2) 8月保育園実習先の例

7月の演習もあって、学生はオペレッタ実践に夢中になりました。

なかでも天昌寺保育園では、一緒に実習していた他校の学生の共演が見られました。2歳の女の子が、「うさぎさん、えーん。えーん。」と何度も保母に語る様子が印象的でした。

太田保育園では、園長先生の応援から専任保母の演技が加わり、オペレッタを盛り上げてくださったことも、成功の一例としてあげられましょう。

ただしこの時期は学校で用意した道具が足りず、各自が勝手に簡単にした道具を利用したため、肝心のオペレッタの良さが生かされなかったこと、カラスの演技のためオペレッタの本筋が伝わらなかった例など、反省の必要なオペレッタ実践がありました。自分達でセットを工夫した良い例として、次の山岸保育園の写真例2があります。



写真2のa



写真2のb

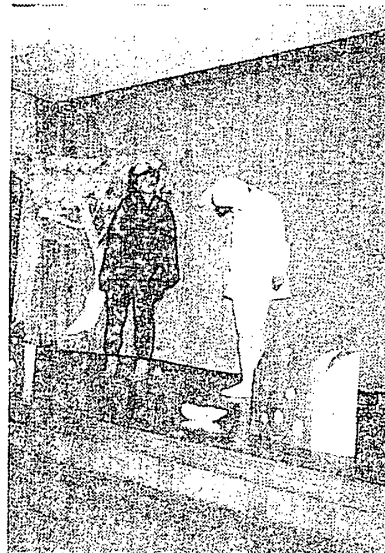


写真2のc

3) 10月幼稚園実習先の例

この時期になると前の発表でいま一度と考えた学生が多いため、オペレッタの導入や表現がとても上手になり、良い評価が得られるようになりました。なかでも釜石明法幼稚園での実践は3回（アンコールを含む）と熱の入った実践だったことを知ることができまし

た。同時期に福祉施設でオペレッタを実践することになり、セット効果のためB組が大道具を増やしました。各オペレッタの実践に手伝う、遠方の学生父兄の運搬協力を見たのもこの頃でした。

4) 12月保育実習先の例

実習最後のしめくくりとして、学生は、実践のなかったところは「うさぎのみみこ」を2度目のところは新作の「おぼけのドーナツ」をと意欲的に、取り組んでくれました。なかでも、「うさぎのみみこ」の続編として「みみこのクリスマス」として自分達の手で脚本を書き、作曲し、振り付けた例は、本学では初めての学生創作となりました。(資料2)、山岸保育園専任保母4人が、配役を担当し、写真3の例のように、オペレッタのフィナーレを全園児で踊るなど、園のご協力のうえに、オペレッタを最大限に生かしていたことは、企画した学生はもとより、私にとってもこの上ない喜びとなりました。同じように専任保母はじめ園長先生自らうさぎのみみこのお母さん役を演じてくださった花巻保育園でのオペレッタも忘れられないでしょう。

このような専任保母の演技はさすがにすばらしく、学生保母の演技を直接勇気づけることにもなり、ますますの幼児の期待と応援が加わって、そこに座す私にとって幼児と保母の間にかよう強い繋りを味わうことになりました。



写真3
山岸保育園



写真4
花巻保育園



写真5
天昌寺保育園

5. む す び

幼児教育科学生は、2年後期にもなると、オペレッタの実践を楽しんでくれます。オペレッタのよりよい表現を決めるために、研究交換会を行なわれなければならないでしょう。そこでチームワークを考えず1人目立ちたがる学生、能力の割合に自分をかくしたがる学生など見出すことにもなります。発表されるオペレッタは、教師が語らずとも、人格形成の上に、学生個人を示唆することにもなりましょう。学生の能力思考はやがて行動へと展開されますが、幼児は行動が先であり、外的刺激の模倣から始まる身体表現が、やがて知的能力の成長につながる感覚機能を刺激とするなら、なんとしてでもよりよい音楽教育としてオペレッタ実践を位置づけ、よりよい学生養成を達成しなければならないでしょう。それにつけても今回各園のご協力があってオペレッタを実践できた学生は、保母となる前に、良い経験を得たことになりました。恐らくこうした経験を積んだ学生は、経験によって得たあるイメージを根底にさらにより実践ができればよいでしょう。またはじめに述べた西沢氏の4項目の1部が関連しあって目的達成の糸口を見出すことにもなりはしまいか。

天昌寺保育園で写真5のような道具1つを生かした劇遊びを観ることができました。やがて音楽能力が豊かになり、少ない道具を効果的に利用した、ごっこ遊びのようなオペレッタ遊びを観ることもそう遠くはないでしょう。その時にオペレッタの実践は保母養成としての音楽教育に位置づけられるのではないのでしょうか。

時代時代の学生能力に合う音楽表現を通して、幼児教育科としてのオペレッタ実践を続けなければと、保母養成校としての音楽教育の方向を再確認した次第です。

〔資料1〕

創作オペレッタ「うさぎのみみこ」

～まどころひさこ作，たざわりえこ絵「ないしょにしといて」絵本より～

脚本作曲 中 村 ウ メ

登場人物

うさぎのみみこ……………1人	ナレーター……………1人
カラスのがちゃたろう…1人	クマのおじさん……………1人
キツネのけんた……………1人	みみこのおかあさん………1人

} 2役可

舞台道具

大きな木，2本 ままごとセット 草花

<ナレーター>

「お友だち，みんな，お母さんや，お父さんの大切なものを，さわってみたいと思ったことなかった。

これから出て来るうさぎのみみこは，どうしてもさわってみたいお皿がありました。それはね，花もようのお皿で，お母さんが大事にしているお皿です。みみこがさわってはいけないお皿，普段はしまっているお皿，そんなお皿をみみこは使ってみたくてたまりませんでした。

ある日，お母さんはお出かけしました。みみこは，お留守番です。」

M1. <うさぎのみみこと，ナレーターのB.G.M.>

うさぎのみみこは幕前に出て話し，歌いながら退場。（幕内かげの声でもよい。）

〈みみこ〉
「すぐかえすから ちょっただけね。 ラ ララララ ラ ララー ラ ラララララ ラ ララー。」

〈ナレーター〉 「みみこは そう言っ，とうとう戸棚からお皿を持ちだしてしまいました。」

幕開

舞台左手に大きな木。中央やや右手にままごと遊びの場。草花は前方にセット。

第一幕 一場

みみこのままごとの場、みみこはお花をつんでいる。

M2. <うさぎのみみこのうた> うたに合わせて動作を振りつける。

「ララララララン、ラララ ララン、ララララララララ ララララ、ラン ままごとごちそう つくりましょ(う)ごちそう つくりましょ。」

えーと ねー、 えーと ねー、 おはなの サラダ つくりま しょう。」

みみこお花をつみ、集める。

(お皿にみみこはお花をもりつける。) 「あー。なんて すてき で しょう。」

<ナレーター>「ブーン。」(はちのなく音)

<うさぎのみみこ>「キャッ!」(みみこは驚いてとびあがり、お皿を落とす。)

<ナレーター>「ガチャーン。」(お皿の割れた音。金の鉛筆入れを落す効果音)

<うさぎのみみこ>「あっ!どうしましょ。エーンエーン。」

みみこはなきながら、お皿のかけらを集める。泣き声を聞いてカラスのがちゃたらう上手より登場。そのようすをうかがう。

M3. ① <うさぎのみみこのうた>

(みみこ泣きじゃくって しゃがみこむ。) 「おかあさん おかあさん お こる で しょう。」

だ いじ な だ いじ な おさ ら を わ、たし が わ たし が こわ し た のー。」

カラスのがちやたろうは、にやにやしながら、みみこのそばに来る。

M4. <カラスのがちやたろうのうた>



カラスのがちやたろうは、腰をひくくして、ガァ、ガァ歌いながらみみこのまわりをまわる。

<うさぎのみみこ>「やめて、やめて。ないしょにして。ねー。ないしょにして。」

<カラスのがちやたろう>「じゃ、おれの歌聞くか、それでもって、踊るか。そうしたら、ないしょにしといてやらあ。」

<うさぎのみみこ>「ウン。」

うさぎのみみこは、いやいやながら、カラスのがちやたろうに従う。カラスのがちやたろうは、腰をひくくし、リズムもとんちんかんに、ぶっきらぼうの、踊りを踊る。みみこは泣きながら、その動きを少しだけまねる。

M5. <からすのがちやたろうのおどりのうた>



カラスのがちやたろうは、みみこをつきとばしてガァガァ泣きながら下手へ退場。M5の途中で、いたずらキツネのけんたが上手より木の影にかくれてこのようすを、うかがう。うさぎのみみこは前よりも、泣きじゃくる。

第一幕 二場

M3. ② <うさぎのみみこのうたとナレーター-B.G.M.>

<ナレーター>「カラスのがちゃたろうのうたは、調子はずれで、いつもみんなからばかにされているのです。けれどもみみこは笑うどころでは、ありません。…
(B.G.M. 開始) ……踊りながら、涙が、こぼれそうでした。」

みみこ「わたしが わたしが こわした の、エー。」

キツネのけんたは、いたずらげにみみこのそばに近よる。

M6. <キツネのけんたのうた>

「みーちゃた みちゃた エッヘッヘッヘッ みーみこ ちゃーん。」

<キツネのけんた>「われたお皿、絶対にばれない所へすてて来てやろうか。」

<うさぎのみみこ>「ほんと、そんなところあるの。教えてお願い、教えて。」

<キツネのけんた>「じゃー。1回だけ…(間ポーズをとって)…チューさせろ。」

そしたら(大きな声で)すててきてやらあ。いいか。このことないしょだぞ。お皿の秘密と一緒にだぞ。」(けんたは舌なめずりをして、みみこに近よる。)

クマのおじさん下手から登場。このようすを見て、大声でどなる。

<クマのおじさん>「こらーッ! けんたッ! 悪ふざけするなッ!」けんたを上手に追って、みみこを見る。お皿のかけらを取ってうたう。

M7. <クマのおじさんのうた>

「どうした み みこちゃん。(みみこをいたわる) そうかー お皿を わったの か。

The musical score is written for a vocal line and a piano accompaniment. The vocal line is in 4/4 time and features a melody with eighth and quarter notes. The piano accompaniment consists of a right-hand melody and a left-hand bass line, both using eighth and quarter notes.

お皿がどこにあったかを考えてから、次のうたを歌う。

あっ これとおなじもよう ならー。 たーしか やぎじいさんの みせに あった よ。」

This musical score continues the piece with a vocal line and piano accompaniment. The vocal line has a more melodic and expressive feel, with some notes marked with accents. The piano accompaniment provides a steady harmonic foundation.

<うさぎのみみこ>「え、おじさんありがとう。すぐに行ってみます。」みみこは喜んで上手へとんで退場。くまのおじさんはみみこを見送って確めてから、下手へ退場。静かに幕が閉まる。

第二幕 一場

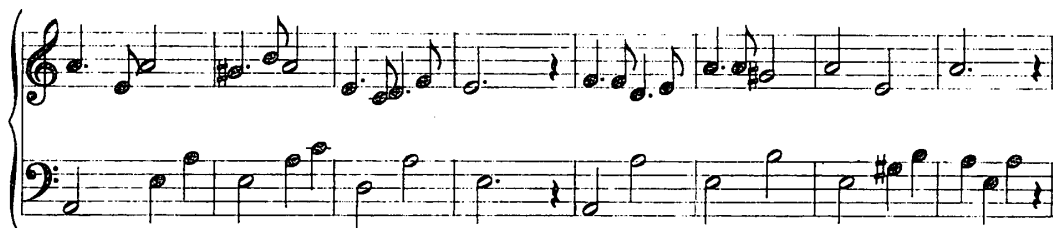
同じままごと遊びの場。夕暮れの照明の工夫、あるいは夕暮れの木や草花の色の变化によるセットがあれば、使用されたい。

<ナレーター>「やぎじいさんの店は、森のむこうです。みみこはピョンピョン急ぎました。……(うさぎのみみこのかげの声)……「同じもようのお皿って、どんなのかしら、割れたお皿と似ているかしら。そうだわ、おこづかいで買って、お皿を戸棚にかえて置けば、いいんだわ。」……(幕前の表現でもよい。)……みみこはそう思いました。やぎじいさんのお店に着いてみると。

M8. <ナレーターB.G.M.>

<ナレーター>「そっくりのお皿がありました。」 「ところが」

The musical score is for a background music (B.G.M.) piece. It features a vocal line with lyrics and a piano accompaniment. The vocal line is simple and clear, while the piano accompaniment provides a rhythmic and harmonic background.



……（やぎじいさんの声で）……「おじょうさん、このお皿は、とっても値段が高いんだよ。おこづかいでは買えないし、落して割っても困るでしょう。お母さんといらっしゃい。」……静かに幕が開く。

みみこ上手より登場。音楽に合わせて、疲れた表情で、ままごと遊びの場にもどり、ペッタンとしゃがみ込む。

下手からカラスのがちゃたろうが、みみこをひやかして通る。

<カラスのがちゃたろう>「ガー、ガー。」

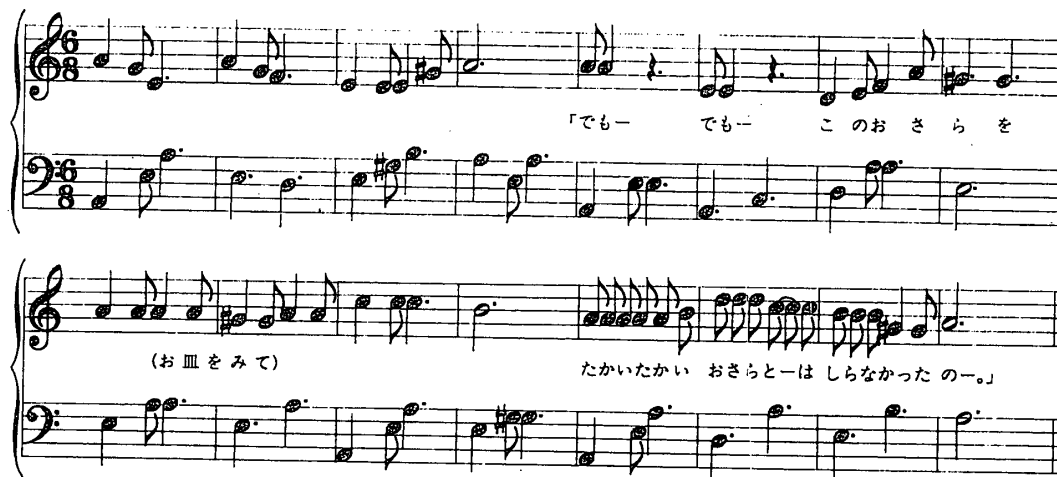
<ナレーター>「カラスのがちゃたろうは、夕方の空を舞いながら通りすぎました。みみこは、だんだん心細くなりました。」

M9. <うさぎのみみこのうた>（みみこはあたりがくらくなるのをこわがりながら、ゆっくり、うたう。）



M3. ① <うさぎのみみこのうた>

みみこは、お皿を集め、ステージ中央に立つ。



みみこのお母さん下手から、みみこの名を呼びながら登場。

<みみこのお母さん>「みみこー。みみこー。み み こ。」

<うさぎのみみこ>「ごめんなさい。ごめんなさい、お母さん。」みみこはお母さんにとびつく。みみこのお母さんは、お皿を確める。

<みみこのお母さん>「くまのおじさんが、知らせてくれましたよ。けがは、なかったの……（みみこの手や足をみる）……さあ、かえりましょう。」おままごとや、お皿をまとめて、うさぎのみみことお母さんは、下手へ退場。

M3. ㊤ <うさぎのみみことお母さんの退場, B. G. M. >



幕。

<ナレーター>

「よかった。うさぎのみみこちゃんはお母さんにごめんなさい、と言えましたね。お母さんもみみこちゃんのいたずらを許してくれました。お友だちみんなも、お母さんとの約束をまもらないことないかな？……（子どもたちと話し合う）……お約束はきちんと、まもりましょうね。」

完。

〔資料2〕

学生創作オペレッタ「みみこのクリスマス」

脚本 松本 郁子 再脚本

作曲 中野久美子 編 曲

中村 ウメ

登場人物

資料1に同じ

舞台道具

第一幕 雪の積もった木 雪のかたまり

第二幕 クリスマスツリー テーブル 時計など部屋のセット

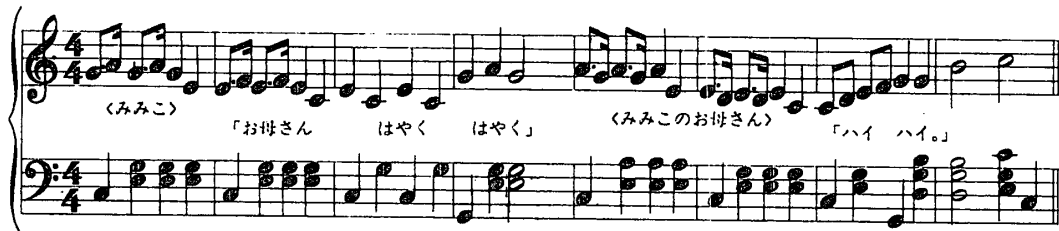
第一幕 一場

雪の積もった木が上手に、雪のかたまり2, 3個ころがしている雪景色の場面。

<ナレーター>

「今日は寒い雪降りの日です。おや、うさぎのみみことお母さんが何かしらさわぎながらこっちの方へ来ますよ。」

M1. <うさぎのみみこと、お母さんの登場M>



<みみこのお母さん> 「みみこちゃん。もう少しゆっくり歩きましょう。」

<うさぎのみみこ> 「手伝おうか。……（荷物を持とうとする。）……重いね。あつそうだ、これを持ちましょう。お母さん。」

みみこはかごの中から1つを取って、荷物運びを手伝う。舞台の中央2回ほど、とびまわる。

<お母さん> 「みみこちゃん。ほらほらあぶないですよ。」

<うさぎのみみこ> 「だって今日は、お友だちが来る日ですもの。お部屋もきれいにしなくちゃあ。みみこお母さんのケーキ楽しみにしてるんだ。ねえみみこ、沢山お手伝する。」

<お母さん> 「ほらほら、あぶない！」

<うさぎのみみこ> （大声で）「いたーい！」 脚の血の布切れを出す。お母さん荷物を置いてかけよる。

<お母さん> 「だから、言ったでしょう。大変。血が……（あわてながら持っているハンカチで手当をする）……家できちんと手当をしましょう。」 みみこは、あたりを手さぐりする。

<うさぎのみみこ> 「あった。これだわ。……（雪をのける）……きれいなお花の模様……。 （間）……お母さん、みみこがこわしたときのお皿よ。お母さんにだめだって言われたのに、ままごとで使って割ってしまったあのお皿よ。」

<お母さん> 「そうだったかしら。どれどれ……。 （間）……きれいなお花ね。みみここんどは、手を切らないようにね。」 お皿のかけらを紙に包む。

M2. <うさぎのみみこのうた> お母さんのお皿を包むのを見ながらうたう。

くみこ
「らららら らららら おさー。 かわいい かわい おさー。」

……(お皿の包みを大切に持って立ち上がる)…… すてき な すてき な おさー。」

(スキップをしてみる) (少しピッコをひく)
「ランランラ ラ ラ」 (脚の調子を気にする) 「ラ ラ ラ ラ ラ (脚を確めて) ラン ラーン。」

M3. <うさぎのみみことお母さんのうた> うたいながら下手へ退場する。

くみこ
「おともだち よんで た のしい パーティー ララララララ ランランラン。」

(かあさん)
「おか あさんも うでに より をかけて パーティー おいしいごちそう つくりましょう。」

幕

<ナレーター>

「そう、今夜は、イエスキリストの誕生をお祝いする、クリスマス イブです。

うさぎのみみこの家でも、パーティーが、始まりますよ。……(みみこパタパタ掃除の音を出す。)……ほら、みみこはお母さんに手伝ってお部屋の準備をしていますよ。おや、お母さんは、ケーキを焼き始めました。うん、おいしそうな臭い。うさぎのみみこの家には、誰が来るでしょうね。」 静かに幕が開く。

第二幕 一場

ステージ上手にクリスマスツリー、中央にテーブルと椅子、その他時計、窓、暖炉等のセットがあると効果がでるでしょう。みみこのクリスマス パーティーの部屋の場面。

みみこ、テーブルかけを直している。

M4. <うさぎのみみこのうた>

「イエスさまのたんじょうび ともだちよんで いわいまして みんなで たのしく
うたをうたい ましょう おどりましょう みんなで きょうはたのしい クリスマス。」

M5. ① <カラスのがちゃたろうの登場とみみこのうた>

カラスのがちゃたろう登場 <みみこ> <カラスのがちゃたろう> <みみこ>
トントーン「はーい。 どなたー。」 「はく がちゃたろうです。」 「まっでたのよ どーぞー。」

うさぎのみみこはカラスのがちゃたろうをテーブルの所に案内して座わらせる。

カラスのがちゃたろうは、てれながらもじもじする。テーブル奥右手に座わらせる。

M5. ② <キツネのけんたの登場とみみこのうた>

<みみこ> <キツネのけんた> <みみこ>
トットトーン 「はーい。 どなたー。」 「けんたです。」 「まっでたのよ どうぞ どうぞ。」

キツネのけんたをみみこは案内する。テーブル左手に座わらせる。にやにやしながら客席の方を見ている。右手に座わっているがちゃたろうは顔をさげたまま照れ

っぱなしの状態。みみこはテーブル中央に立つ。

<うさぎのみみこ>「がちゃたろうくん。今日はみみこのクリスマスパーティーに来てくれてありがとう。もう少し待ってね。」今おいしいケーキが焼けるところなの。」

<お母さん>「みみこ、ケーキが焼けましたよ。」

<うさぎのみみこ>「ハーイ。…それじゃがちゃたろうくん、けんたくん、ちょっと待ってね。」

ケーキと聞いて、がちゃたろうはもじもじ、けんたは舌なめずりをする。お互いが気になって向かい合う。

<カラスのがちゃたろう> ……同時に……「あっ!」「なんだ君か。」

<キツネのけんた> ……同時に……「あっ!」「なんだ君か。」

お互指先をし、中腰に立って座りなおす。

M6. <カラスのがちゃたろう> もじもじして立ちあがる。

「ぼく。みみこちゃんがおさらを割ったとき」 がちゃたろう踊る。

「ガッガッガッ ガッ ガッー。 やまの むこう は やままた やまよ

やままた やま やま よー。 ガッガッガッ ガッ ガッ ガッー。」

「みみこちゃん、いやだっていうのに、お皿の秘密を内緒にしてやるからって、踊らせてしまったんだ。」

M7. <キツネのけんたのうた> 急にイスから立ち上がって

「ほくも み み こ ちゃん 1回だけチューさせろ。」

「なんて、言ったもんな。」

カラスのがちゃたろうとキツネのけんたは、しょんぼり座って思案顔をする。

M8. <カラスのがちゃたろうとキツネのけんた>

お互いテーブルはさんで背をむけた姿勢でうたう。



<一緒に> 「みみこちゃんにあやまろう。」

<うさぎのみみこ> (ケーキを持って入ってくる。) 「はーい、ケーキのできあがり。」

<けんたとがちゃたろう> 「みみこちゃん、いじわるしてごめんね。」

<うさぎのみみこ> 「もうずっと前のことでしょう。もう気にしてないわ。私たちお友だちでしょう。もう仲良くしましょう。」

<けんたとがちゃたろう> 「あー。よかった。」

M9.



<うさぎのみみこ> 「クマのおじさんよ。おじさん、いらっしやい。」

<クマのおじさん> 「みみこちゃん。メリー

・クリスマス。おやそこにいるのは、けんただな。コリャ、けんた。」

<うさぎのみみこ> 「もうみんな仲良しになったのおじさん。」

<クマのおじさん> 「そうか。そうか。それは良かった。」

<うさぎのみみこ> 「お母さん。パーティー始めましょう。」

M4を全員で歌う。きよしこの夜を園児を入れて歌う。ジングルベルを園児と一緒に歌いながら踊る。手を振って、園児と別れ、園児は席に着く。

完

参 考 文 献

- 三嶋 唯義編訳：「ピアジュとブルーナー」試文堂新光社
林 信二郎 編：「モンテッソーリ教育の実践」あすなろ書房
間所ひさと 作：「ないしょにしといて」PHP研究所
田沢梨枝子 絵
第26回全日本音楽研究会長野県大会資料